

人つながり、未来へつなげる、 比也野里づくり

—比延地区ふるさと夢プラン—



平成 26 年(2014 年) 3 月
比延地区まちづくり協議会

目 次

1	ふるさと自立計画の目的	1
2	まちづくりの目標と方針	3
3	みんなで取り組むこと	4
	(1) ふれあいの比延づくり	4
	①より開かれたコミセンづくり	
	②多様な交流プログラムづくり	
	(2) 支えあいの比延づくり	5
	③買い物・送迎支援	
	④田畑・空き家等の管理・活用	
	(3) チャレンジする比延づくり	7
	⑤特産品づくり	
	⑥担い手づくり	
	⑦田舎観光とI・Uターン促進	
	⑧情報発信	
	(4) 協働の場づくり	8
	⑨協働の場づくり	
4	まちづくりの手順	9
資 料		10
1	比延地区の現状（詳細）	11
2	ふるさと夢会議の記録	12
	・第1回 比延を知ろう	12
	・第2回 前計画の評価	13
	・第3回 こんな比延をつくりたい	14
	・第4回 まちづくりの進め方	16
	・第5回 先進地視察	17
	長谷地区の振興を考える会	
	与布土地域自治協議会	
	・第6回 自立計画の共有	21
	・第7回 先行イベント	22
3	比延地区まちづくりアンケート結果	25

1 ふるさと自立計画の目的

西脇市東部にあって東西に細長く伸びる比延地区は、播磨風土記の時代から栄えた、豊かな自然（畑谷川沿いの田園風景、ホテル、モリアオガエルなど）、歴史・伝統文化（住吉神社、犬次神社など）、文化・レクリエーション施設（日本へそ公園、岡之山美術館など）などに恵まれたところです。住民は、心おだやかで仲が良く、ふるさとを愛する固い絆で結ばれ、まちをよくする様々な活動が活発に行われています。



住吉神社

旧街道沿いの街並み

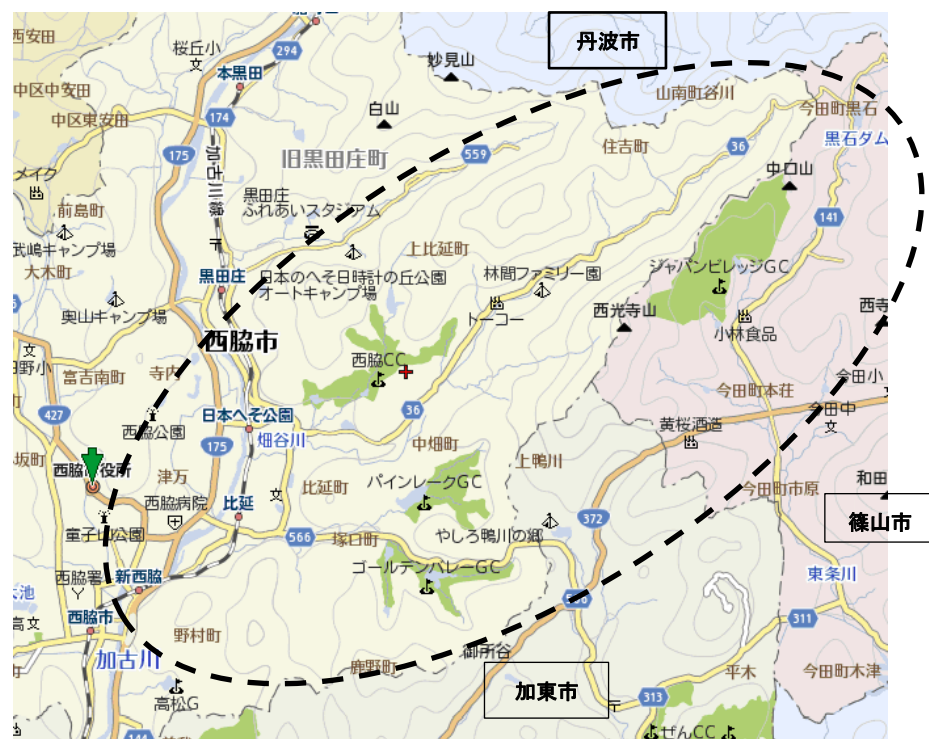
日本へそ公園

岡之山美術館

しかし、他の農村地域と同様に少子高齢化が進んだことなどにより、地区の活力や賑わいが低下するとともに、次のような課題を抱えています。特に、東部の限界集落化が進む地区を中心に、買物・通院など生活を支える基本的な機能をどのように維持・確保していくかが緊急の課題になっています。

- 例・少子化・高齢化により、地区の将来に対する漠然とした不安がある。
- ・公共バス、店舗・医院の撤退により、生活の維持が困難になっている。
- ・竹林・田畑などの維持管理が一部で困難になっている。
- ・世代間や町間の交流がないなど、コミュニティの固定化傾向が見られる。
- ・比延を切り開いていく新しい産業への取り組みが見られない。

■比延地区の位置





比延地区では平成17年(2005年)3月に第一期「比延地区まちづくり計画」を策定し、計画に基づき様々な取り組みを行ってまいりましたが、策定から9年が経過し、その間少子高齢化をはじめとする社会情勢が変化したため、改めてまちづくり計画を見直す必要が生じていました。

この間、比延地区まちづくり協議会が中心になり、惣菜・弁当の販売、ふれあい喫茶(へそでちゃ)など、新しい取り組みを進めてきました。この流れを絶やすことなく、地区の力を結集して、住民がふれあい・支えあいながら安心して暮らせる比延をまず育てる必要があります。また、1300年以上の歴史をもつ比延を、将来にわたって若さや活力を失わず、自立的・持続的に発展していける地域として次代にバトンタッチできるよう、比延が元気なうちに、新しいまちづくりに取り組む必要があります。

この計画は、兵庫県の「ふるさと自立計画推進モデル事業」の採択を受け、地域住民による計7回の意見交換会(ふるさと夢会議)を通じて、「比延地区の5~10年先を見通したまちづくり計画」として作成したものです。比延に住む私たちは、比延の様々な資源(ヒト・モノ・カネ・情報・人間関係など)を活かし、行政はもちろん様々な主体(企業・大学・NPOなど)と連携しながら、新しい比延のまちづくりに取り組みます。

ふるさと夢会議の開催経緯

月日	テーマ	会場	会議の様子
7月26日	「比延を知ろう」 ・比延の資源・魅力と問題・課題	こみせん比也野	 グループに分かれての意見交換
8月29日	「前計画の評価」 ・できたこと・できなかったこと、 こうありたい	こみせん比也野	
9月20日	「こんな比延をつくりたい」 ・目標像と取り組みの内容	こみせん比也野	
11月1日	「まちづくりの進め方」 ・取り組みの方策、仕組み	こみせん比也野	
12月~ 1月	アンケート調査実施 外出、買い物支援について	比延地区全体	
1月27日	「先進地視察」 ・神河町長谷地区、朝来市与布土 地域自治協議会	神河町、朝来市	 先進地視察(神河町)
1月30日	「自立計画の共有」 ・自立計画案に関する意見交換	こみせん比也野	
3月30日	「先行イベント」 ・現地踏査、自立計画の発表	比延地区 こみせん比也野	

2 まちづくりの目標と方針

比延に住む私たちは、長い歴史をもち、自然・歴史・文化に恵まれる比延が好きです。比延の人々は仲が良く、固い絆で結ばれ、地域活動が盛んです。しかし、この10～20年の間に少子化・高齢化が進み、比延の元気が少なくなりました。バス路線や店舗・医院の撤退により、買物や通院が難しい人も出てきました。竹林や田畑の維持管理が難しい世帯も出てきました。個人であたり前のようにできていたことができなくなってきたのです。

これまで、まちづくり協議会が中心になって、ふれあい喫茶や惣菜・弁当の販売などを行ってきました。これをさらに発展させ、買い物や移動などで困っている世帯を支援するとともに、ふれあいの場や機会を増やし、安心して暮らせる比延をまず作ります。竹林や田畑の維持管理に地区として関わることもめざします。

1300年以上受け継いできた比延を絶やすことなく、次代にバトンタッチするためには、若い人が住みたい・行ってみたいと思える、元気な比延をつくるのが大切です。そのため、特産品の開発などとともに、比延の魅力を発信することも大切です。

私たちは、地域の伝統的なまとまりを大切にし、何でも自分たちでやろうとしましたが、このことで新しい住民や地区外の人とのつながりが薄れていたかもしれません。今後は、いろいろな外の力も借りながら、未来へ向けて創造し、持続可能な比延づくりに向けて取り組みます。

このような考えのもと、5～10年先を見通した比延のまちづくりの目標と方針を次のように定めます。

《目 標》

人つながり、未来へつなげる、
比也野里づくり

《方 針》

比延の力を
結集します

一人や一町でできなくなっていることを地区全体でカバーし、安心して住み続けられる比延をつくるために、比延の様々な力を結集します。

外と連携し
外に向けて
発信します

活力と魅力ある、持続可能な比延をつくるために、様々な主体（企業、大学、NPOなど）と連携し、若い力の導入を進めるとともに、外に向けて発信します。

新しい参画
と協働の場
を整えます

新しいまちづくりに向けて、これまでの組織の統廃合も含め、様々な主体が参画・協働できる場や組織づくりを進めます。

3 みんなで取り組むこと

(1) ふれあいの比延づくり

①より開かれたコミセンづくり

- ・こみせん比也野が多世代・多地域・他分野の交流の場として利用され、比延の元気づくりの拠点になるよう、みんなで工夫します。

例・コミュニティバスの待合室や高齢者等の憩いの場として改修

- ・誰でもふらっと入れる、くつろいだ雰囲気づくり



へそでちゃ（喫茶、ギャラリー）

②多様な交流プログラムづくり

- ・比延に住む人々が互いに知り合い、比延の魅力を再発見し、比延のまちづくりに参画できるよう、多世代・多地域の住民が参加できる交流プログラムを進めます。
- ・実施にあたっては、地区内外の団体・人材の支援を要請するほか、子供や若い世代が参加しやすいプログラムづくりなどに留意します。

《プログラム例（夢会議で出た意見より）》

子供の野球教室・自然体験・ホタル教室・環境学習（塩滝で小型水力発電など）・獣の動物園、高齢者と子どもの昔遊び・芋掘り、8町合同の文化祭・運動会・駅伝・ハイキング（城山～西光寺山）、まちあるきとマップづくり、歴史再発見ツアー、パソコンやSNS（フェイスブックなど）の使い方講座



いも掘り



よってけライブ



ホタルまつり



比也野まつり

(2) 支えあいの比延づくり

③買い物・送迎支援

次の2つの案をもとに実現の可能性を検討し、具体化・実現化を進めます。

案1：移動販売サービス → 送迎サービス

《ステップ1：移動販売サービスに着手》

- ・ 買い物に困る東部（住吉町、中畑町）の高齢者などを対象に、食料品を定期的に移動販売するサービスを実施します。
- ・ こみせん比也野で行っている食料品、惣菜、弁当の配達販売を強化する形で移動販売サービスを具体化します
- ・ 移動販売車を住民交流の拠点としても活用し、独居老人等の見守り等も行います。
- ・ 配達に必要な車の購入は、助成金の活用などを検討します。

《ステップ2：送迎サービスへ事業拡大》

- ・ 西脇の市街地方面（例：病院・診療所、商店、駅など）への移動が困難な高齢者などを対象に、定期的な送迎サービスを実施します。
- ・ 移動販売サービスが軌道に乗った段階で、送迎サービスのルート・停車地・時間、許可申請などの検討を行った後に、送迎サービスを実現します。

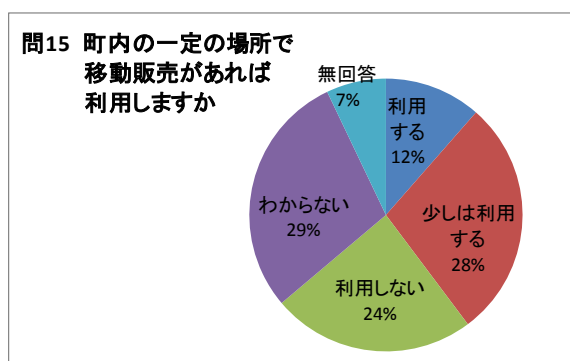
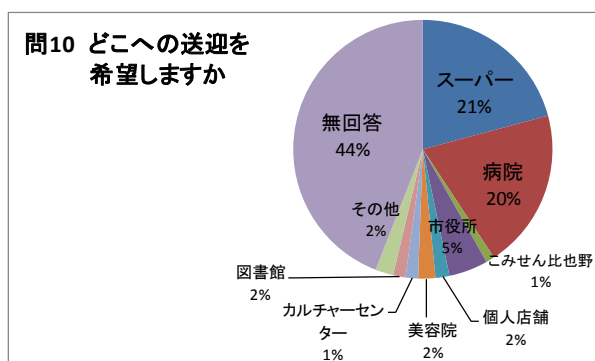


中畑町



住吉町

■送迎・買い物に関するアンケートの結果



案2：へそでちゃの物販充実&送迎サービス

《へそで茶の物販の充実》

- ・こみせん比也野でワンストップの買い物ができるよう、取り扱う商品の種類をミニスーパー程度に充実させます。
- ・コンビニチェーンとの提携（例：神河町長谷地区）、曜日を決めた生鮮品（魚・肉など）事業者の出張販売等も検討します。



こみせんの物販コーナー



地区直営のマーケット(神河町長谷地区)

《送迎サービス》

- ・物販の充実とともに、買い物に困る東部（住吉町、中畑町）の高齢者などを対象に、へそでちゃへの送迎サービスを実施します。
（例：神河町長谷地区、週2回）
- ・西脇の市街地方面（例：病院・診療所、商店、駅など）への移動が困難な高齢者などを対象にした送迎サービスについて検討し、実現をめざします。



送迎バス（丹波市市島町鴨庄）

④田畑や空き家等の管理・活用

- ・住む人にも訪れる人にも美しく・心地よい比延づくりに向けて、休耕田に景観作物（レンゲ、菜の花、コスモスなど）を栽培するとともに、沿道を季節の花で演出するなどの取り組みを進めます。
- ・荒れた田畑の管理・活用、獣害対策、空き家情報の一元管理とIターン希望者等への情報提供に地区として取り組みます。



比延地区の田園風景

(3) チャレンジする比延づくり

⑤特産品づくり

- ・荒廃が進みつつある高嶋町の竹林の整備・再生、筍の加工、観光への活用（竹林オーナー制：都市住民に所有者になってもらい、竹林の間伐、土入れ、筍掘りなどを楽しんでもらう）を高嶋町とともに進めます。
- ・キクイモ、ひょうたんなどの特産品づくりをさらに進めます。今は見られない伝統工芸品（例：竹ぐし、毛針など）の復活をめざします。



高嶋町の竹林

⑥担い手づくり

- ・比延に定住して頑張る若い人が増えるよう、自然・歴史・文化、遊び・スポーツなどを通じた多世代の交流、人材育成を進めます。
- ※比延に残ることに加えて、都会に一度出て行って仕事・技術を身につけて帰って貢献するなど、いろいろな選択肢があることを伝えるなど



ひょうたんを使った交通安全キャンペーン

⑦田舎観光とI・Uターン促進

《田舎観光》

- ・比延を訪れる人が増えるよう、比延の「見・食・遊」をマップにまとめ、へそで茶などに配備します。
- ・休耕田などの貸農園等への利用、情報提供・受け入れなどに地区として取り組みます。

《I・Uターンの促進》

- ・比延の力になるI・Uターン者が増えるよう、外に向けて比延をアピールします。



マップの例(朝来市与布土地区)



Iターン者が住む「みんなの家」(丹波市)

⑧情報発信

- ・比延のまちづくりへの参加者や来訪者・移住者が増えるよう、ホームページ、フェースブックなどを用いて情報発信します。
- ・比延を発信できるイベント等の開発・実施をめざします。



ホームページの例(与布土地域自治協議会)

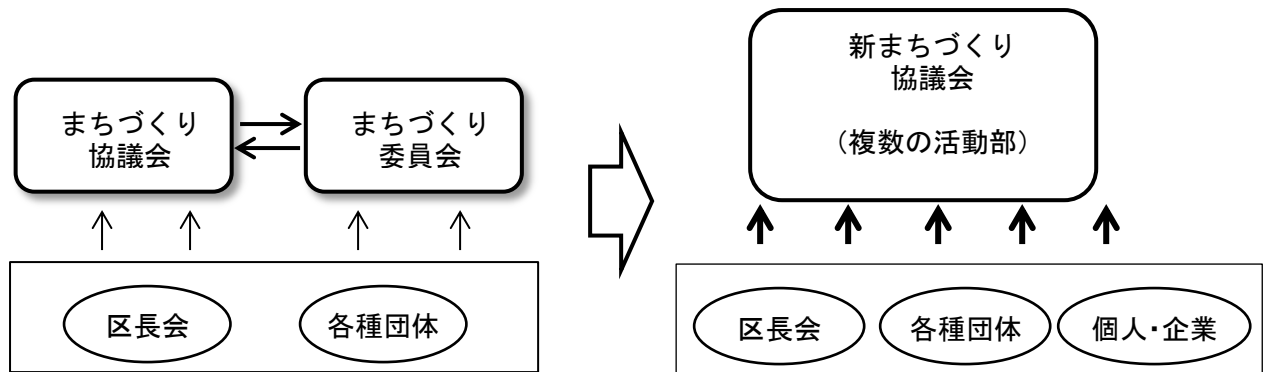
(4) 協働の場づくり

⑨協働の場づくり

比延地区の老若男女、新旧住民、多様な能力をもつ人、多様な組織・団体の参画のもと、外部の応援も得ながら「比也野里づくり」を進められるよう、「まちづくり協議会」「まちづくり委員会」の合併を経て、「(仮称)比延地区自治協議会」の設立を進めます。

《組織の合併》

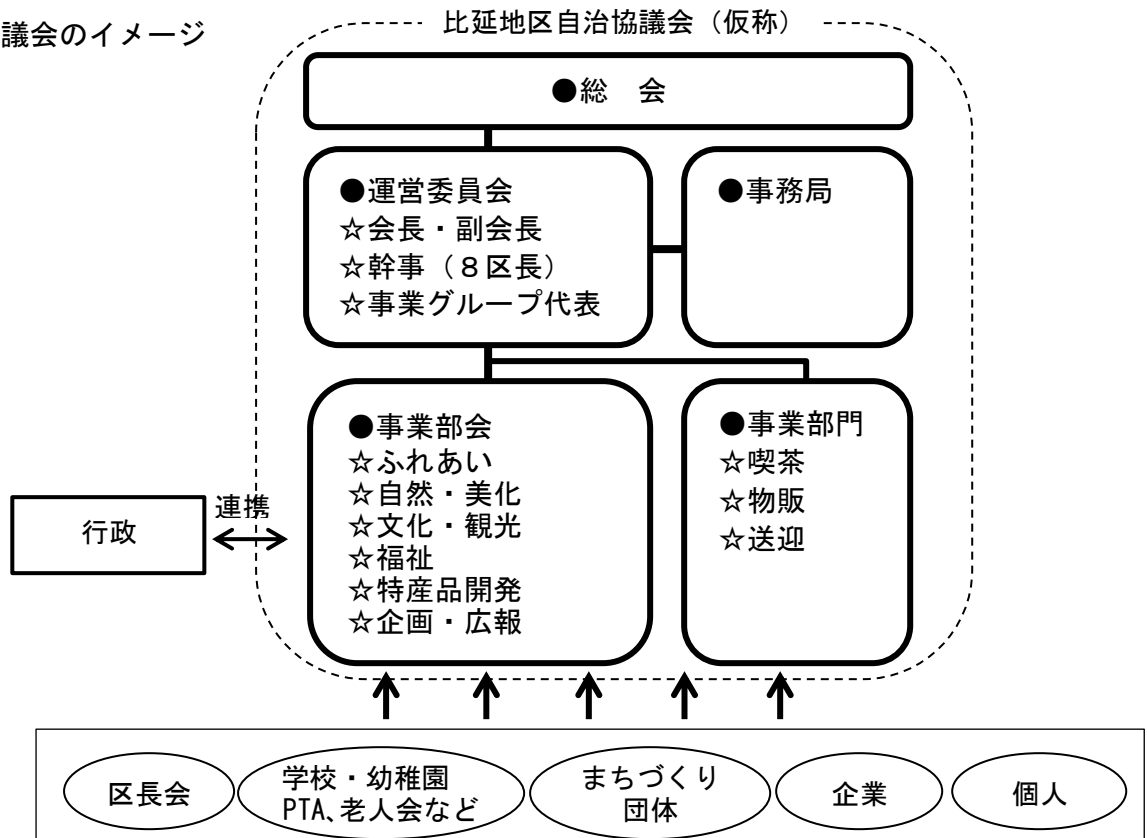
- ・「まちづくり協議会」「まちづくり委員会」の合併により「比延地区まちづくり協議会」を発足させるとともに、区長会などの各種団体一層の参画を進めます。



《自治協議会の設立》

- ・新まちづくり協議会の活動を活発化させる中で、より広範な団体や人の参画によるまちづくりが展開できるよう、自治協議会の設立を進めます。

■自治協議会のイメージ



4 まちづくりの手順

テーマ		1～2年	3～5年	6年～
(1) ふれあいの比延づくり	①開かれたコミセンづくり	☆待合室や憩いの場に改修	☆くつろいだ雰囲気づくり	
	②多様な交流プログラムづくり	★多世代・多地域の交流プログラム		
(2) 支えあいの比延づくり	③買い物・送迎支援	★移動販売サービス → 送迎サービス		
		★物販充実&送迎サービス		
	④田畑や空き家等の管理・活用	☆景観作物の栽培、花による沿道の演出		
		★田畑、空き家の管理・活用 獣害対策		
(3) チャレンジする比延づくり	⑤特産品づくり	★竹林の再生	★筍の加工、オーナー制	
		☆特産品づくり(物任など)	☆伝統工芸品の復活	
	⑥担い手づくり	☆自然・歴史・文化などを通じた多世代の交流		
	⑦田舎観光とI・Uターン促進	☆比延のマップづくり	★I・Uターンの促進	
	⑧情報発信	★ITによる発信(ホームページ、フェイスブックなど)	☆イベント等の開発・実施	
(4) 協働の場づくり	⑨協働の場づくり	★組織の合併 新協議会設立	★自治協議会設立	

※ ★ は重点取り組み

資 料

1 比延地区の現状（詳細）

○概況

- ・西脇市の東部にあり、面積 44 km²（市域の約 1/3）、畑谷川に沿って細長く広がる。
- ・播磨国風土記に比延に関する記述があるなど、古くから栄えたところ。
- ・西部は加古川・旧街道沿いに市街地が集積、東部は山地・農地の中に集落、工場が点在。
- ・人口 4,260 人、1,533 世帯、2.78 人/世帯。高齢化率 30.1%と高齢化が進行。住吉町、上比延町、高嶋町は、準限界集落（55 歳以上人口比率が 50%を超過）。（H25 年 10 月 1 日、住民基本台帳）
- ・織物産業が栄えたが、近年は農業の傍ら西脇市や周辺に勤務する世帯が大半。
- ・地区内の施設：地区コミュニティセンター（コミセン比也野）、各町公民館 7、簡易郵便局 2、小売店舗 0、診療所 0、小学校 2（うち 1 校は 27 人）、中学校 1

○自然・歴史・文化などの資源に恵まれている

- ・日本へそ公園、岡之山美術館など、広域からの吸引力のある文化・観光資源がある。
- ・旧街道、住吉神社、田園風景、竹林（高嶋町）、陶芸家群（住吉町）などもある。
- ・ホテルやモリアオガエルなどの貴重な動植物が生息するなど自然が豊か。

○生活を支える機能が低下し、暮らしにくくなっている

- ・JR 2 駅は地区の最西部にあり、運行本数は 1 日 9 往復と少なく、日常的利用は少ない。
- ・路線バスが廃止され、市コミュニティバスが 1 日 5 往復運行（土日は休み、夏休み隔日）しているが、住民の使いやすさの面で十分でない。
- ・地区内の小売店舗や医療機関が撤退・廃業し、移動手段の問題もあり、高齢者を中心に生活の維持が困難になっている。
- ・コミセンで食料品などの販売を行っているが、住民のニーズに十分対応できていない。

○竹林・田畑の維持管理が困難になり、特産品づくりも十分でない

- ・少子高齢化などにより耕作放棄地が拡大し、神社や竹林・田畑の一部などの維持管理が困難になっている。
- ・筍、クワイモ、里いも、ひょうたんなどの栽培が行われてきたが、比延地区を代表する特産品に育っていない。

○まちづくりが盛んな一方、コミュニティも固定化しつつある

- ・伝統的なコミュニティが堅固に維持され、まちづくり活動（※1）が盛ん。
※1 比延地区まちづくり協議会、比也野里まちづくり委員会など。例：コミセンの喫茶、惣菜・弁当の販売、出前喫茶、住民交流事業（寄席など）、ふるさとホテルまつり。
- ・少子高齢化により、多世代交流が少ない。西部の鹿野町・堀町（※2）と高齢化が進む東部の交流がない、新しい人が活動に参加しにくいなど、コミュニティの固定化傾向が見られる。
※2 公務員宿舎や公営住宅が立地し、総体的に人口が多く・高齢化率が低い。

2 ふるさと夢会議の記録

■第1回 比延を知ろう（7月26日 こみせん比也野）

比延の資源・魅力、問題課題を出し合いました。

テーマ	○ここが好き・財産	●ここが問題・なんとかしたい
自然・風景	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・緑が豊か、空気がきれい ・静かで落ち着く、夏涼しい ・山に囲まれた田園風景、おだやかな風土 ・畑谷川のホタル、ホタルの里 ・生物（モリアオガエル、ニホンアカガエル、モウセンゴケ） ・自然レクリ施設（住吉農村公園：桃源郷、あんずの里、ファミリー園） ・水が冷たく、米がおいしい ・城山からの景色がきれい ・西光寺山、瀬戸内海・明石海峡が見える 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来植物が増えた ・山が利用されていない ・山・川ばかりで草刈りに困る
人・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・のどかで人がやさしい ・人と人のつながりが強い ・年少から高学年まで仲良しの学校 ・ボランティア活動が盛ん ・地域の祭りが多い ・校舎が新しくなった（双葉小） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少なくなった ・若い人の確保、婚活 ・高齢化が進んだ ・老人の一人暮らしが多い（なくしたい） ・やや閉鎖的、外から人が来ない ・秋祭りの太鼓が1町のみ ・居酒屋が遠い
暮らし（買い物・交通・医療）	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな工場、商店もある ・通勤にちょうど良い距離 ・コミセンができて人が集まる ・高速道路に近く大阪・神戸に行きやすい ・JRの駅もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・店がない、買物が不便（移動販売車がほしい） ・医院・薬屋がない ・比延の中心に公園がない ・みんなが気軽に集まる場所がない ・気軽に運動できる場所がない ・地区が長く交通が不便（特に高齢者） ・町中の道が狭い、歩道整備、橋が不便 ・スピードを出す車が多い ・JR便が少ない
農業・仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・筍 ・ゴルフ場（3）がある ・優良企業（例：小沢、イケウチ）がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・水がない ・休耕田が多い ・獣害（シカ、イノシイ、アライグマ） ・働くところが少ない ・工業団地が活かされていない
歴史・文化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・昔が残るまち ・歴史・文化・観光資源が多い（岡之山古墳、慶雲寺、黒田官兵衛の母の郷・城山、岡之山美術館、テラドーム、青年の家） ・文化活動が盛ん（ゆめコーラス、お針の会、ビーズの会、ふき矢クラブなど） ・窯・陶芸家が多い（りんどう焼など） ・イベント（へそマラソン、花火） 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光場所がPR不足 ・岡之山まつりの予算が少ない
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が少なく、住みやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害の影響（土地価格下がる、新しい人が来ない）
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・住めば都 ・日本のへそ ・まちづくり、まちおこしの材料が多い ・JRの2駅（比延駅、日本へそ公園駅） ・都会から1時間 ・まとまりやすい大きさ ・比延町塩滝に小水力発電を 	<ul style="list-style-type: none"> ・さびれた

■第2回 前計画の評価（8月29日 こみせん比也野） 「まちづくり計画の提案書」（平成17年3月）の達成状況、今後の必要度などについて意見交換しました。

	1班		2班		3班		4班	
1-1 まちづくりの拠点整備と地区住民のふれあい事業を進めよう	2AA	○まちづくりの拠点として活用できている。子供とのふれあいも不定期ではあるができています。 ☆お年寄りの憩いの場になっている。地域の交流が図れる。	2AA	○農協跡地の活用、子育て教室の開催 ←市の支援、農協の協力、地域の参画 ●子どもとの交流やあづかり←学童保育の整備 ☆すでに実施している。交流の拠点として認知されている。	1A	○拠点はできた←JA、市、地元の協力があつたから ●子育て支援（市の子育て学習プランでしかできていない） ☆活動の指導者がいない	2AA	○上比延、老人会、子供と芋掘り、まちづくり協議会の交流部で子ども達と交流 ☆町でできないことをコミセンで（購買、配食、生活支援）
2-1 伝統的な街並みや神社等の歴史資源を保全・創出する取り組みを進めよう	2A	○祭り、子供みこし、太鼓、盆踊りなど昔からの行事はそのまま引き継いでいる。	1A	○歴史マップ等の地域内での配布←市の援助、メンバーの協力 ●案内板の設置←人・金・時間の不足 ★午前すべきものが少ない	-1AA	○比也野区で資料作成 ●看板のルール、案内マップなし←思いのある人がいなくなったのでは？	1A	○歴史マップの作成（まちづくり委員会）、タウンウォッチング（まちづくり委員会） ●景観の保全ルールづくり ☆賛否両論あり
2-2 美化清掃ボランティア活動を進めよう	2A	○河川、道路の草刈り年2回している ☆自然を大切に	2AA	○地域内の公共的な場所にフラワーポットを置いたり、花壇を整備した。 ←まちづくりグループの部会活動として実施。河川愛護活動（地域の各自治会で実施） ☆住みやすいまちづくりのため	-1A	○少人数で一部清掃←町単位、老人会でやっている？ ●全体としてできていない方が多い ←指導者・人手不足	2AA	○花植え、協議会の美化部（コミセン、へそ駅、比延の踏切、青年の家グラウンド、安楽寺の前）
3-1 地元雇用の拡大につながる工場公園等への企業誘致を促進しよう	-2AA	●企業誘致は今のところあまり進んでいない。雇用は少ない。 ☆若い人が都市へ出て行く。	-1AA	○日誌ヨーク（鹿野町）、KYC（上比延町） ●雇用の拡大 ☆若者の定着	0A	○日清ヨーク、KYC（光洋機械産業） ←組長が努力して何人か入った？ ☆若者を引き留める	-2AA	○いくつかの企業は来た。 ●市の役割←雇用につながっていない。 ☆（遠方から通うのではなく）家族ぐるみで定住してほしい。
3-2 地域の自然や伝統を活かしたコミュニティビジネスを展開しよう	1A	○金ごまは少し根づいている。黒豆も増えつつある。（JAみのり） ☆地域の特産として活用できると良い。	2AA	○作品展、キクイモづくり、ホテルまつり、ひょうたんづくりと配布←住民、メンバーの努力 ☆継続は力なり	-2	○へそでちゃ、杏の里、ひょうたん焼、キクイモ、ホテル ●タケノコ、炭焼、シカ対策←人材	-2AA	○芸術家は増えている。陶芸家のまつりには、都会から大勢の人が来る。キクイモ、ごま、黒豆 ●芸術家は勝手に住んでいて交流がない。後継者がいない（タケノコ）。 ☆個人でできないことを協議会として支援していく。
4-1 おでかけ支援として地域タクシーの運行を検討しよう	-1A	☆コミュニティバスを小型にして、少し便数を増やし、運転手を確保。←地域の交通を守る。	-2AA	○検討 ●実施←ハード面でハードルが高い ☆まずはバスの利便性を高める、それが無理なら検討	-2A	○コミバス代用、出張販売（へそで茶） ●地域タクシー←コミバスがあるので ☆買い物（カナートがなくなる）、高齢化、独居化、	1AA	○少しは研究した。 ●市のコミュニティバスしかない ☆検討ではなく実施の段階
4-2 子ども達とともに環境学習を進めよう	2AA	○小学生と一緒に米づくり、自然環境を守る：ホテル祭り（中畑町）、魚の実態調査（鹿野町）、ひまわり栽培、コスモス	-2A	●子どもとの環境学習←準備と人材不足 ☆実現はしたい	1A	○学校活動の中で小中学生がボランティア、まつり ●子どもとの接点、ゲーム	-1A	○双葉学園の清掃に参加、水車の庭園の清掃（まちづくり委員会） ●地区全体の取り組みではない
4-3 道路や歩道の整備、バリアフリー化、交通安全対策を推進しよう	2AA	○ひょうたんを配布（交通安全週間）、みまもり隊←みんなの協力、意識の高さ	-2A	○一部道路の整備←住民の要請 ●バリアフリー化とさらなる道路整備 ☆より安全性を高めるため	1AA	○みまもり隊、道路整備、信号、通学路変更←要望、区長単位で処理	-2AA	○中畑 ●上比延
4-4 災害に対する安全対策を進めよう	2AA	○年2回の河川の草刈り	1A	○河川の清掃活動、防災マップ←住民の協力、市の協力 ●住民意識の高揚←なれ合い ☆命を守るため	-1AA	○河川対策、ハザードマップ ●防災訓練←危機感がない	-1AA	○自治防災組織、防災訓練（鹿野）
4-5 犯罪を防止し、安心して暮らせるようにしよう	2AA	○みまもり隊 ☆変な人がときどき出る	1AA	○安心して暮らせるまちづくり←住民のコミュニティができています。元々治安が良い。 ●消防以外の自治防災組織←あまり必要性がない。 ☆安全な暮らしのため	0	○鍵をするなど自己管理 ●自主パトロール	1AA	○パトロールはできている
5-1 他地区との連携、人材育成・まちづくり活動への助成・支援の仕組み	1A	○まちづくりの活動としてはよくできている。他地区との交流はあまりない。老人会がグラウンドゴルフで、市民体育大会	1A	○地域イベントへ他地区の方を招待←区長会から物心両面にわたる支援 ●共同開催なこと←そこまでなかなか困難	1A	○助成、支援システムの活用 ●人材・後継者育成←考え方、生活	1AA	○芳田地区の花の苗を分けてもらう。へその西脇織物まつり、ホテルまつり

凡例：○：できたこととその要因、●：できなかったこととその要因、☆：必要な理由、★必要でない理由

(例) 2Aのうち、2は達成度（-2かなりできなかった、-1ややできなかった、0どちらでもない、1ややできた、2かなりできた）、Aは今後の必要度（Aやや必要、AAかなり必要）

■第3回 こんな比延をつくりたい（9月20日 こみせん比也野）

まちづくりの目標像、取り組みの内容などについて意見交換しました。

※ゴチックは重要と考えられる意見

A ふれあい・交流

（1）住民間、町間のふれあい・交流のある比延をつくる

●多地域・多世代が交流できるコミセンづくり

●世代間、町間の交流を活発化する

（例：高齢者と子どもの芋掘り・竹トンボ、8町合同の運動会・文化祭、ハイキングコース<城山～西光寺山の尾根コース>、家族で楽しめるスポーツ・レクリの場、各種教室・講座）

●比延の歴史を再発見し活かす（例：上比延町慶雲寺の話）

B 助け合い、協働

（1）高齢者が安心して暮らせる比延をつくる

●移動・交流手段を整備する

（例：地域タクシー）

●「へそでちゃ」の強化と移動販売

（例：食材、総菜、日用雑貨、軽トラ購入）

●金融窓口の整備（例：JAのATM設置）、簡易診療所の開設の検討

●ボランティア活動の少額報償化を検討

（2）個人ではできないことをみんなで進める比延をつくる

●個人財産（山林、田など）を管理・活用する組織をつくる

（例：営農組合）

●個々の町の問題を地区全体で考える場をつくる

（例：まちづくり協議会の強化）

C 働く場、産業おこし

（1）特産品の開発で経済的に豊かな比延をつくる

●比延ブランドの特産品の開発

（例：キクイモのたれ、高嶋タケノコ・竹炭、ひょうたん）

●比延の伝統産業・工芸品の復活（例：竹ぐし、毛針、まつたけ）

●産業開発のための外部の力を導入

（例：竹林を整備するオーナー制）

●農産物（米や野菜）の地産地消の推進

（2）新たなビジネス・就業の場がある比延をつくる

●地域の資源を活かした産業開発

（例：空き家、休耕田）

- 若い人が起業しやすい環境づくり
- 工業団地への企業誘致の協力

(3) グリーンツーリズム（田舎観光）で賑わう比延をつくる

- 自然資源（休耕田、山など）を活かす
（例：住吉の里、貸農園、まつりーホテル・コスモスなど、サイクルロード）
- 広域観光資源を観光に活かす
（例：日本のへそ、へそ公園、テラドーム、美術館）
- 加古川の整備活用（堤の整備・活用：比延は加古川に面しており、有効活用できないか）
- アートを活かした観光開発（例：陶芸家等との交流・協働）

D 防災、環境

(1) 災害に強い比延をつくる

- 地域ぐるみの防災教育
- 災害に強い町づくり（河川の改修など）
- 道路整備（例：三田までのバイパス、街灯整備）

(2) 環境と共生する比延をつくる

- 子ども達の環境学習を進める（例：比延町潮滝に小さな水力発電をつくる）
- 川に水があり、魚が釣れるまちづくり
- 獣害を防ぎ、動物と共存できるまちづくり
- 町内の美化を進める（例：道路、溝、堤防など）

E 人口の若返りと活用

- 子供が安心して成長できる、子どもの笑い声が絶えないまちづくり
- 若い世代が住みたいと思える魅力ある比延をつくる
- 若者の定住、都会からの移住のための方策を検討する

■第4回 まちづくりの進め方（11月1日 こみせん比也野）

取り組み内容を具体化／実現化するための方策、仕組みなどについて話し合いました。

A: ふれあい、支えあい（4班の発表の後、意見交換）

- ・「へそでちゃ」の出張販売は1回／月、住吉町のみ（出前喫茶は1回／月）。コミュニティバスは、運行ルートが粗く、土・日は休み、夏休みも隔日になり利用しにくい。
- ・住民のお困り内容を知るためにアンケートを実施してはどうか。各地域の内容を知るために8町を対象にした方が良い。年度内の実施・まとめを目標に内容案を作成する。
- ・生活支援には、送迎（買い物、病院など）、食料品配達などあるが、まず送迎サービス（地域タクシー）から始め、軌道に乗った段階で配達サービスに拡大してはどうか。
- ・送迎、配達などを独自に手がけるのではなく、すでに実施している事業者（例：コープ神戸の宅配、介護タクシーなど）との提携（比延地区は窓口・コーディネート機能を果たす）なども検討してはどうか。
- ・6年前のアクションプラン作成時に地域タクシー計画はあったが、運転手の確保ができず具体化しなかった。今回は、運転手をしてもらえばいい住民がいるので、実現化しやすい。
- ・地域タクシー認可の問題があるが、「へそで茶」の会員の送迎などの名目で可能なはず。

B: 比延地区のマネジメント（1班の発表の後、意見交換）

- ・比延地区のまちづくりを進めていく、各種団体からなる組織を立ち上げる必要がある。
- ・この組織は、比延地区の各種団体が、これまでの「ツリー（木）型」ではなく、フラット（同等）で横につながる「ネットワーク（つながり）型」。
- ※まちづくり協議会、まちづくり委員会、区長会などの様々な組織がまちづくり協議会「（仮称）比延地区夢会議」の一員になり協議・協働していく。
- ・平成27年3月発足を目標とする。将来的に法人格（NPOなど）の取得も考えられる。

C: 特産品、魅力（3班の発表の後、意見交換）

- ・比延地区では、一部（キクイモ、ひょうたんなど）を除けば特産品は少なく、特産品製造業者もない。今後協議会などが事業化を支援していく状況にもない。
- ・田舎観光（グリーンツーリズム）の資源（例：竹林、農地など）はあるので、観光農園、オーナー制などの「受け入れ窓口」を協議会などが担ってはどうか。

D: 若い人、魅力（2班の発表の後、意見交換）

- ・若い人が比延地区に住み続けるためには、生計が立てられることが必須条件であり、就業地の少ない西脇市では困難か。
- ・若い世代（比延に住む高校生、社会人）の力を比延地区のまちづくりに活かすために、いろいろな活動に若い人を巻き込み、活動を任せることも必要か。
- ・住吉町に住む陶芸家などとの交流を深め、これを契機にアーティスト系の若い世代の移住を進めることも考えられる。

■第5回 先進地視察

1 長谷地区の振興を考える会、(株)長谷

平成26年1月27日(土) 10~12時
株式会社長谷 代表取締役社長 藤原幸夫

《神埼郡神河町長谷地区》

- ・9集落、世帯数316、高齢化率約40%の地区

《活性化の経緯》

- ・「長谷地区の振興を考える会」は、平成6年、長谷地区ダム対策協議会の中に、住民が安心・安全に生活できる環境に取り組む組織として発足。
- ・平成20年、JA兵庫西の経営合理化により、マーケット2、ガソリンスタンドが閉鎖。
- ・住民の日常生活が困難になるに伴い、平成19年「長谷地区の振興を考える会」再発足。委員56名、役員12名(区長9, 社協1, 婦人会1, 振興会3<代表1, 危険物取締1, 夜間勤務1>)。6部会(総務、ふれあい、農産、マーケット、SS、イベント)で構成。
- ・事業実施部門として平成19年、株式会社長谷設立。役員は「考える会」と同じ。1万円/戸(計316万円)の出資。積立金(ダム対策費)を充てたため住民の出資意識が薄い。
- ・平成22年、センター長谷(町の出先機関、旧JA長谷支所)の窓口業務を受託。

《マーケット、SS》

- ・平成19年、県民交流広場事業(1300万円)によりふれあい会館(マーケット)建設
- ・平成20年、JA跡地にマーケット川上店・長谷店、SSオープン(6日/週)
- ・平成25年、Yショップふれあいマーケット長谷店としてオープン。Yショップの知名度から、砥峰高原への観光客、一般客の利用・購入が増えた。
- ・JA職員が来るため預金・引き出しが可能(川上店のみ)。診療所の利用も可能。
- ・移動販売は行っていない(住民が店舗での購入を好む。周辺に移動販売の地区もある)。車で15分の距離にスーパー(マックスバリュ)などはある。
- ・利用率アップのために予約注文実施(肉、中元、Xmasケーキ、年賀はがきなど)

《買い物送迎サービス》

- ・ふるさと自立計画推進モデル事業(平成23年度)を活用し車購入。
- ・長谷店は、火・金曜日、川上店は火曜日。平成24年度:利用者549人/99日、平成25年度:利用者500人/99日。平均5~6人/日。
- ・バス運転手の報酬:2時間/回で2万円程度/月。

《経営状況など》

- ・スタンドは収支トントン。マーケットはマイナス200万円/年(100時間/月営業で人件費100万円/年、電気代100万円/年。利益率15%に届かず。基金から借り入れ)
- ・センター長谷は(株)長谷、「考える会」の事務所。住民票の発行を町から受託。(株)長谷は「考える会」の事務を実施(受託)。



長谷地区の風景



長谷地区研修



ふれあいマーケット



マーケット内部

2 与布土地域自治協議会

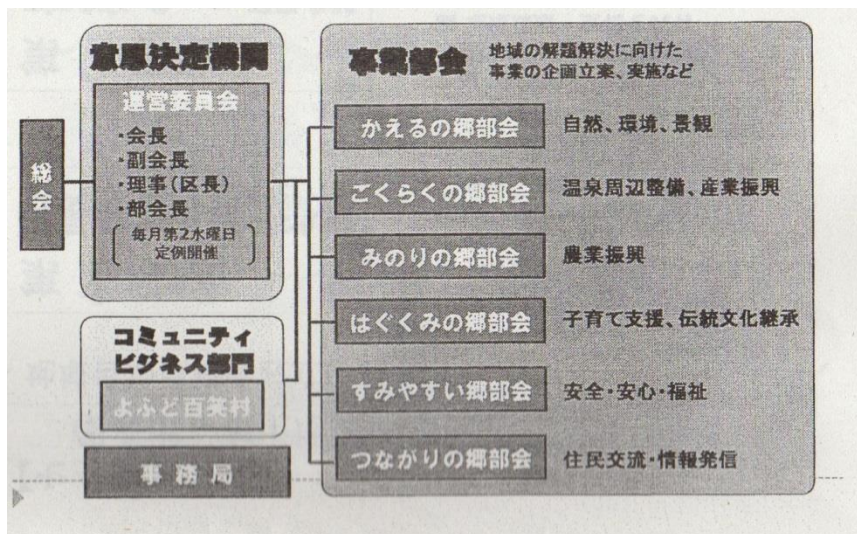
平成 26 年 1 月 27 日（土）13～15 時
 会長 岡林史郎、地域マネージャー 奥幸之
 区長会会長 西澤裕、市長公室副主幹馬袋真紀

《朝来市の地域協働まちづくりの経緯》

- ・ 朝来市をとりまく状況
 平成 17 年朝来市誕生（旧生野町、和田山町、三等著婦、朝来町）、少子高齢化、厳しい財政状況、地域力の弱体化（自治会運営、遊休農地、空き家、安全・安心への不安）
- ・ 上記のような状況の中で、地域自治システム（自分たちのまちは自分たちでつくる）導入
 分権型社会システム検討懇話会（平成 17、18 年度）
 地域支援職員の配置（平成 19 年度）
 地域自治協議会設立、支援交付金の交付（平成 19 年度）
 第 2 次分権型社会システム検討懇話会（平成 19、20 年度）
 協働の指針策定（平成 20 年 3 月）、自治基本条例施行（平成 21 年 4 月）
- ・ 現在までに 11 自治協議会（12 小学校区）が設立される。
- ・ 地域自治包括交付金は、各地域のニーズに基づいて交付・活用される（金額は地域によって異なる）。

《与布土地域の取り組み》

- ・ 区長会での意志決定（平成 18 年 12 月）、座談会の開催（平成 19 年 1～3 月）、設立準備委員会での協議（平成 19 年 4～6 月）、協議会設立総会（平成 19 年 6 月）、協議会の運営
- ・ 与布土地域自治協議会の組織



かえるの郷部会～自然の魅力あふれる郷づくり～

ごくらくの郷部会～誰もが訪れてみたくなる郷づくり～

みのりの郷部会～美しい農業集落と豊かな食文化をあわせもつ郷づくり

はぐくみ郷部会～ふるさとの誇りを育む郷づくり～

すみやすい郷部会～安全で安心して暮らせる郷づくり～

つながりの郷部会～一人ひとりが参加する交流の郷づくり～

- ・ 自治協議会設立後の地域の変化

協議会は地域づくりの基盤（だれでも気軽に参加できる、子供や女性の声を反映して思いを形に実現できる）、行政に頼らない地域経営、地域の一体感、生涯学習の場

- ・ 今後の方向性

目指すは与布土村役場（地域の課題を解決する、地域の皆さんに役立つ、区や団体を補完する）、自立した地域経営（地縁団体の設立、民主性を確保した組織づくり、自主財源の確保）

《質疑応答、意見交換》

- ・ 若い人の取り込み方は？ → 得意分野のある人は部会活動へ、何かをしたい人はプロジェクトチーム（昔の青年団に近い）へ参加してもらおう。部会にはだれでも参加できる。いろいろな人が参加することにより、部会メンバーがスポーツクラブの応援をしてくれるなどの波及効果がある。
- ・ 事業部門として「よふど百笑村」を設立。古民家レストラン「百姓茶屋 喜古里」、米・加工品のインターネット通販、地産地消（よふど温泉など）、農産物に限定した「ゆうパック集荷事業」を行っている。レストランは赤字状態が続いている。現在の田舎料理は、与布土の住民は毎日食べているものであり、うどんやカレーが欲しいとの要望もあり、現在検討中。通販は JA よりは少し高い値で売れる程度で、売れないで残るものもあり、

十分軌道に乗っていない。

- 与布土にコウノトリが飛来して、子供を産んで、現在は九州へ移動した。帰ってきたときのために、コウノトリが棲める郷づくりをしたい。
- 自治協議会ができる前は、与布土のマネジメント（まとめ役）は区長会が行っていた。この伝統を受け、現在の協議会は区長会がリードしている（理事は区長で構成）。区長会の忙しさを軽減するためにも、協議会が必要だった。※区長会、スポーツクラブ 21 の事務局機を協議会が担っている。
- 行政、協議会、区は、それぞれに役割分担がある。市から協議会への要望はない。信号設置などは、区ではなく協議会が行う。
- 区長会の役割：区の問題を運営委員会に出すこと、運営委員会での決定事項を区に返すこと、未定内容を区に持って帰ること
- 専任事務局員は 3 名（事務局長、マネージャー、女性スタッフ）。事務局員は、有能な人材を有給で確保する必要がある（当初ボランティアでお願いして失敗した）。
- 自治協議会は、行き過ぎた行政への依存体質を改め、みんなで気づいたことを持ち寄り、少しずつ解決していくようになったという意味で効果的だった。



与布土地域の風景



与布土地域研修



古民家レストラン「百姓茶屋 喜古里」



喜古里の定食

■第6回 自立計画の共有（1月30日 こみせん比也野）

ふるさと夢会議で出された意見を踏まえて作成した「自立計画案」の説明のあと、「これが大切」「これが抜けている」「私はこれに取り組みたい」を出し合いました。先行イベント（3月に実施予定）の案も出し合いました。

1 これが大切

- 交流・ふれあい：ふれあいの場・イベント／8町合同イベント／コミセンまつりの充実
- 買物支援：買物困難の解決／移動物品販売／おかずの出前販売／物販をコンビニが代行
- 送迎支援：送迎サービス／採算がとれるように／送迎方法は利用者の要望に添うように
- 田畑・竹林の管理活用：休耕田畑の管理活用／竹林の整備・再生／自然の保全
- I・Uターン促進：若い人・家族のI・Uターン／仕事ができる環境づくり

2 抜けていること

- 病院・薬局利用の支援：医療機関に送迎／薬が地区内でもらえる
- 空き家情報の発信（組織の一元化で発信）
- 土地利用の法制度の見直し：都市計画市街化調整区域の打破
- 農産物の生産・販売
- その他：人材の確保／移動図書館（パソコン予約で本を届ける）

3 これに取り組みたい

- 交流イベントの開催
 - ・世代間のふれあい／大運動会／城山ハイキング／城山～西光寺山縦走
- 遊び・自然体験・環境学習教室などの開催（企画、講師）
 - ・子供野球教室の開催／ホテルまつりでのホテル教室開催、多地域の子供へ呼びかけ／昔遊び（子供に知恵をつけさせる）／獣の動物園／自然体験学習／自然エネルギーの利用を考える／歴史再発見の旅／小型水力発電（塩滝）／
- 移動販売・送迎の運転
 - ・買物の注文と配達／送迎の運転／
- 特産品・観光の開発
 - ・特産品づくり（筍、キクイモ、金ごま、ひょうたん、里いも）／レンゲ・コスモス／竹林オーナー制／貸農園／企業との連携（特産品の販売）

4 先行イベント案

- まつり：春のコミセンまつり（フリーマーケットなど）／へそ公園でまん中発信祭
- レクリエーション：8町多世代ランドゴルフ／各町対抗の駅伝／バーベキュー
- ハイキング：城山登山／西光寺山登山／8町と町外合同ハイキング
- 自立計画実施に向けた現地踏査を兼ねたまちあるき

■第7回 先行イベント（3月30日 比延地区、こみせん比也野）

ふるさと夢プランの実現に向けて、改めて比延地区の状況を知り、資源を再発見しようと、午前中、高嶋町、鹿野町、比延町のまちあるきを実施しました。そのあと、へそでちやの女性スタッフのみなさんの手づくり料理をいただきながら交流しました。午後は、2階ホールにおいて、アドバイザー（山本茂さん）によるまちづくりに関するミニ講演とふるさと夢プランの紹介がありました。終了後、藤井会長から「みんなで夢プランを進めましょう」と挨拶があり、ふるさと自立計画推進モデル事業（平成25年度）を終えました。

1 まちあるき

前夜から雨が降っていたことから、まちあるきは困難と判断し、山上さんの指導を受けながら、比延が発祥の播州織と関係の深いコットン（綿）を用いた工作を楽しみました。

その後、雨が小降りになったので、約20名でまちあるき（こみせん→高嶋町→鹿野町→比延町→こみせん）を行いました。まず、竹林のオーナー制の導入が計画されている高嶋町の竹林へ。筍の栽培は、江戸時代に京都の竹を持ち帰ったことから始まり、柔らかくて美味しい筍として有名だったけど、近年栽培農家は数軒に減少。成長5年ぐらいの古い竹を間伐したり、竹林の土を掘って毎年2～3cm敷くなどの手入れをすることで美味しい筍が育つそうですが、手入れが行き届いていない竹林が多いことが伺えました。

その後、鹿野町、比延町へ移動し、歴史に詳しい廣田先生に解説をしていただきながら歩きました。比延町では、かつて江戸時代から続く商家（米屋、傘屋、小間物屋、鍛冶屋、仕出し屋、旅館など）、銀行、郵便局などが沢山あり、中には櫛・釣り針・組紐などを製造・販売し、和歌山から仙台あたりまで行商を行っていた店も数軒あったようです。古くからの道である黒田庄滝野線と直行する広幅員の道路（約4m）沿いは、かつて秀吉の許可を得て楽市楽座が開かれていたとのこと。この道路を東に進んだところには、京都から織物の技術を持ち帰り、播州織の礎を築いた飛田安兵衛の生家もありました。このように、比延地区は、播磨風土記の時代から、戦国～安土桃山、江戸、明治～昭和に至る長い時代の中で栄えた地域であることがよく分かりました。



綿を用いた工作



高嶋町の竹林



楽市楽座が開かれていたところ



満開のモクレンの前で記念撮影

2 昼食と交流

まちあるきから帰り、へそでちやの女性スタッフのみなさんによる地元の食材を用いた手づくり料理をいただきながら交流しました。

メニューは、里芋コロケ、キクイモ入りのかき揚げ、里芋の煮物、ワケギのぬた、野菜サラダ・漬け物、豚汁、おにぎり（炊き込み、鮭、牛肉）でした。



バイキング風の手づくり料理

3 ミニ講演と夢プランの紹介

■まちづくりミニ講演

《まちづくりって何？》

- ・まちづくりとは、地域の課題の解決と望ましい将来像の実現に向けて、地域の資源を活かして、持続的に働きかけること。

《新しい公共》

- ・「新しい公共」とは、行政サービスを行政に任せるのではなく、市民・NPO・事業者などいろいろな主体の参加によって地域を健全につくり上げていくこと。

《かせぎとつとめ》

- ・昔の日本では、一人前の大人がしなければならないことは二つあった。「かせぎ」と「つとめ」。前者は生計の維持、後者は世間ぜんたいに対する責務のようなもの。ここ何十年か、日本だけでなく世界全体が「かせぎ」に傾いた。それらが行き詰まった今は「つとめ」を取り戻すべき時ではないのか。（池澤夏樹）

《比延の活動とまちづくり》

- ・比延で行われている比延をよくするための活動は、すべて「まちづくり」「新しい公共」「つとめ」。

《まちづくりの○△×》

- ・○はよいところ、×はよくないところ、△はなんとかならんかな（ちょっと問題、惜しいな）。○を伸ばし、△を改善しよう。

《まちづくりのたてとよこ》

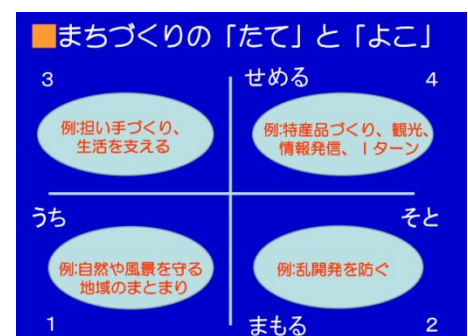
- ・1（うち×まもる）は、自然や風景・地域のまもりを守ること、2（そと×まもる）は、乱開発を防ぐこと、3（うち×せめる）は、担い手づくりや生活を支えること、4（そと×せめる）は特産品づくりや観光・情報発信、Iターンなど。1～3は比較的容易であり、難しい4に意識的に取り組む必要がある。



輪になったのミニ講演と計画紹介

比延の・・・

- **良いところは？**
自然が一杯、人がやさしい・・・
- △ **なんとかならんかは？**
買物・移動、子供が減っている？
- × **良くないところは？**
地域がまとまりすぎ？



■ふるさと夢プランの紹介

《まちづくりの目標と方針》

- ・目標の「人つながり、未来へつなげる、比也野里づくり」には、横（現在）と縦（未来）の2つの方向、3つの方針「比延の力を結集します」「外と連携し、外に向けて発信します」「新しい参画と協働の場を整えます」にも、「うち」「そと」の2つの方向と「中心」が示されている。

《みんなで取り組むこと》

- ①ふれあい
 - ・コミセンをより開かれた場所にする、いろいろな人が参加できる交流プログラムづくりが大切。
- ②支え合い
 - ・買い物・送迎の支援は、「移動販売方式」「物販充実&送迎サービス」の2案のどちらかをめざす。
 - ・田畑や空き家等の管理・活用（休耕田で景観作物栽培、沿道を花で演出、田畑の管理や活用、獣害対策、空き家情報の管理・提供）も大切。
- ③チャレンジ
 - ・特産品づくりは、高嶋町の竹林再生、筍の加工・販売、竹林オーナー制、特産品づくり（キクイモ、ひょうたんなど）、伝統工芸品の復活（竹ぐし、毛針など）。
 - ・担い手づくりは、比延に残ることに加えて、都会に一度出て行って仕事・技術を身につけて帰って貢献するなどの選択肢もあることを伝えてはどうか。
 - ・田舎観光とI・Uターン、比延の情報発信も大切。

④協働の場づくり

- ・まちづくりを総合的に進めるために、まちづくり協議会とまちづくり委員会の合併を経て、自治協議会の設立をめざそう。

《まちづくりの手順》

- ・当面重点的に進めるプロジェクトは、「買い物・送迎の支援」「竹林の再生」「協働の場づくり」ではないか。
- ・比延の未来と次世代のために、「あたり前」「つとめ」としてのまちづくりを楽しく続けよう。

■まちづくりの目標と方針

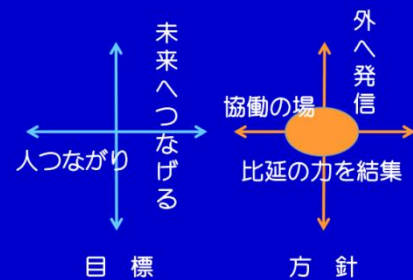
人つながり、未来へつなげる、比也野里づくり

比延の力を結集します

外と連携し外に向けて発信します

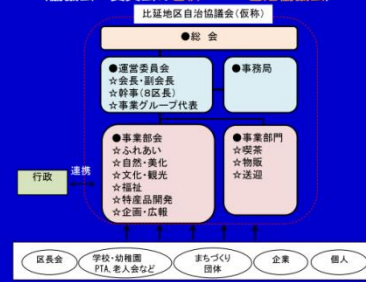
新しい参画と協働の場を整えます

●2つの方向



■協働の場づくり

(協議会・委員会の合併 → 自治協議会)

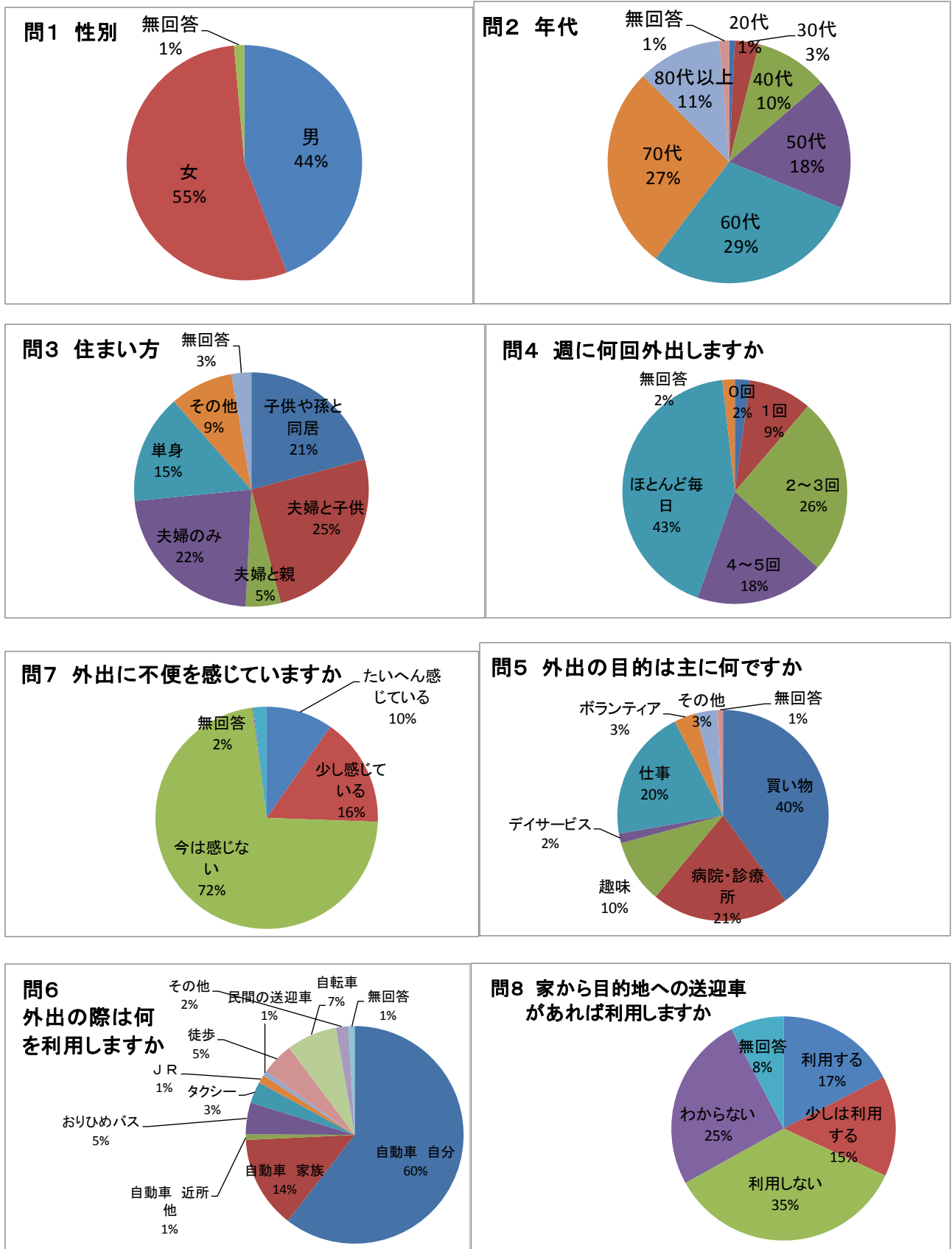


■まちづくりの手順

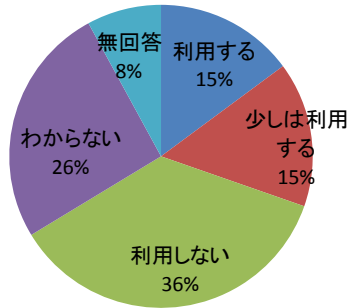
	1~2年	3~5年	6年~
●多様な交流プログラムづくり	多世代・多地域の交流プログラムの展開		
●買い物・送迎支援	案1: 移動販売サービス → 送迎サービス 案2: 物販充実&送迎サービス		
●田畑や空き家等の管理・活用		田畑、空き家の管理・活用、獣害対策	
●特産品づくり	竹林の再生	竹の子の加工、オーナー制導入	
●田舎観光とI・Uターンの促進		I・Uターンの促進	
●情報発信	IT(インターネットなど)による比延の発信		
●協働の場づくり	組織合併、新協議会の設立	自治協議会の設立	

3 比延地区まちづくりアンケート結果

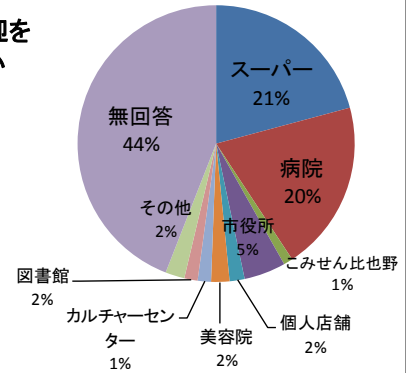
※アンケート配布数 1,402 件 提出 782 件 回収率 55.7%



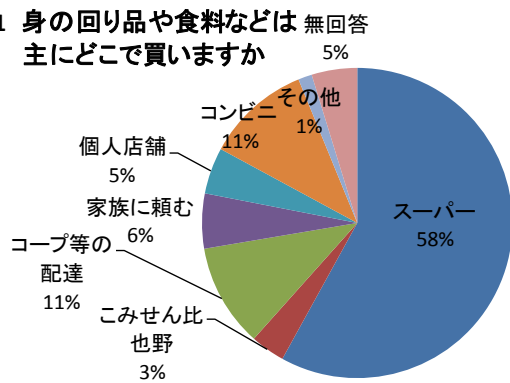
問9 町内の一定の場所から
目的地への送迎車があれば利用しますか



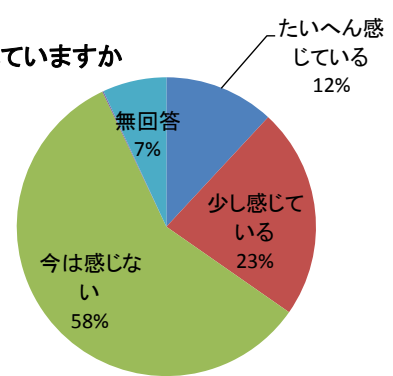
問10 どこへの送迎を
希望しますか



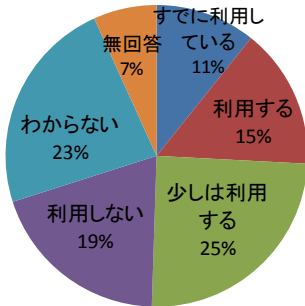
問11 身の回り品や食料などは
主にどこで買いますか



問12 買い物に
不便を感じていますか



問14 希望の商品を家まで配達してくれる
サービスがあれば利用しますか



問15 町内の一定の場所で
移動販売があれば利用しますか

